NPO 塾全協
NPO法人　学習塾全国連合協議会　東日本ブロック

塾全協新聞

題字：怜齋（白川亮　進ゼミ柏）

発　行：NPO 法人学習塾全国連合協議会
全国事務局長・東日本ブロック
広報局長：中村基和
発行日：2016 年(平成 28 年)4 月

ごあいさつ

●全国会長　後田多（しいただ）　純寿（すみす）（沖縄県浦添市　津田塾）

皆様には私共 NPO 塾全協の活動をご支援頂き衷心より感謝申し上げます。

NPO 塾全協は、東日本ブロックと西日本ブロックに分かれて通常の活動をしていますが、11 月の「全国研修大会」では東西が一堂に会して交流を深めながら活動しています。昨年は西日本ブロック担当で神戸にて開催いたしました。今年は東日本ブロック担当で、東京で開催することになっています。大会実行委員の方々は大変でしょうが、是非とも実り多き研修大会になるようご尽力頂きますようお願いします。

ゆとり教育からの脱却、大学入試改革、英語教育改革等様々な教育改革が進む中、我々民間教育に関わる塾人がどうやって貢献していくのかという大きな課題を抱えながら、私達は日常の業務をこなしていかなければなりません。多くの仲間達と意見・情報を交換しながら自塾にとってのベストな道を築いていく努力が必要となります。

部活動改革論

――公立中学の部活動の実態――

東日本ブロック理事長　**沼田広慶**　（千葉県松戸市　北辰館スクール）

以下の論考は松戸市の公立中学に通っている塾生からの聞き取り調査に基づいている。

【公立中学のスポーツ系部活動の実態】

（1）活動時間

〔夏時間〕（4 月～9 月）月曜日～金曜日　朝練 6:45～8:00　夕練 16:00～18:30
土曜日 7:00～12：00 or 8:00～12:00 or 6:00～18:00　/　日曜日 7:00～18:00

〔冬時間〕〔冬時間〕（10 月～3 月）月曜日～金曜日　朝練 6:45～8:00　夕練 16:00～18:00
土曜日 7:00～12：00 or 8:00～12:00 or 6:00～18:00 /　日曜日 7:00～18:00

〔春休み・夏休み・冬休み〕ほぼ毎日あり、原則として曜日による違いはない。特に夏はお盆休みが 2～3 日あるだけで、練習時間は 7:00～18:00. が一般的である。

＊夏時間と冬時間の違いは夕練の終了時間が 30 分違うだけである。

＊上記の時間は平均的なもので、部活によってかなりの差がある。

たとえば、野球部やサッカー部の夕練の終了時間は 19:00～20:00 が一般的である。また、数年前だが、卓球部で 18:00 に練習終了後、監督の先生が選抜メンバーを自家用車で民間の卓球クラブに連れて行き、21：00 ごろまで特訓練習をすることがあった。

また、スポーツ系ではないが、特記するものとして吹奏楽部がある。監督の先生にもよるが夕練の終了時間が 21:00 になったことがあった。その際は春・夏・冬休み中も連日 21：00 ごろまで練習した。弁当を二つ持参した。

＊中間期末等の定期テスト前は直前 3 日間だけ練習がない。ただし、月曜日からテストの際、直前の土曜日や日曜日に練習試合をさせ、ほぼ 1 日拘束されたこともあった。

＊上記の練習終了時間は帰宅時間ではないことに留意する必要がある。先生や先輩からの「説教時間」が加わるとさらに拘束時間は増える。解散後、コンビニ等で先輩たちとの付き合いを強要されることもある。何もなくても帰宅時間は上記の終了時間から 30 分後くらいが一般的。

（2）指導者と指導内容

監督の先生はいないことが多く、上級生による指導が中心である。また、テニス部の監督が柔道部の監督も兼ね、先生自身は柔道の経験がなく、全くの素人だったこともある。

先生によって指導レベルの差が大きく、方針も違う。練習を休むとレギュラーから外すのは一般的だ。この影響は大きい。風邪をひいて学校の授業は休んでも夕方からの部活には出ると言い張る生徒もいるくらいである。

将来、甲子園を目指したい者やプロのサッカー選手を夢見ている者とそうでない者とが、一緒になってやっている。意識の差が大きい。

また、小学生からやっている者や運動能力が高い者や低い者などが一緒になってやっている。本来ならレベルに応じた練習が必要だが、現状では限界がある。というよりほとんどできない。

【問題点】

（1）一般的に家庭学習の時間が少なくなる。体力的に余程余裕があり、学習にも積極的に取り組めるような生徒ならば、短時間に集中的にやることもできるが、それはごくまれな例であり、ほとんどの生徒は帰宅後、食事をとってから風呂に入り、そのあとすぐに寝てしまうケースが多い。玄関に倒れてそのまま寝てしまったケースもある。

（2）土・日が 2 日間ともほぼ一日拘束されることが多く、家族での活動ができない。春・夏・冬休み中もほとんど休みがない。父親が無理をして夏休み中に有給を取って家族旅行を計画したところ、練習試合が急に決まり、レギュラーを外されるのがいやで、旅行に参加しないと言い張り、旅行をキャンセルしたケースがある。地域のボランティア活動にも一切参加できないため、地域社会や地域住民との接点がない。災害時における避難や救助活動にも支障をきたす恐れがある。

（3）1 年間 365 日が部活動を中心に動いており、ほかのことは関心興味を持つ暇がない。くだらないテレビを見ないのはいいが、ニュースも見ないため、国際問題などに対する関心も知識もない。

悪さをしないのはいいが、良いこともしない。それに、悪さをするのは、部活動をさぼるか、していない者が多い。だから、学校側や保護者は部活動に専念させていればいいというような傾向がある。学校側で管理してくれればいいという保護者側の意識や生活実態も問題だ。

（4）ゲームやラインをやる時間はあっても勉強はしない。勉強には体力も気力も必要だが部活のやり過ぎでぼうっとしていては意欲的に取り組めない。ゲーム等で時間をつぶすのがやっとである。部活で疲れが激しいとゲームもしないで寝ることが多い。ゲームをしないのはいいが、勉強をしないのは困る。読書も全くしない。

（5）部活によって帰宅時間が遅かったり、体力的に余裕がなかったりする場合は、通塾もできず、家庭学習もないことから、成績が落ち込む。もともと学習能力が高くても、部活のために学習時間がほとんどなくなり成績が悪くなり、高校受験でも底辺校しか行けない者も多い。

（６）国民全体の学力を向上させるのが公教育の目的ならば、部活漬けの生活をやめさせ、学習時間を確保させる必要がある。何故、これほどまでに部活でエネルギーを奪っているのか、理解に苦しむ。日本国民を部活馬鹿にしようとしている反日勢力の陰謀ではないかと思ってしまう。

【改革案】

（１）部活時間の制限を設ける。平日は朝練はなし。夕練も２時間以内。土曜日も４時間以内とし、練習試合等は１か月に１回以下とする。日曜日は大会出場以外はなし。完全下校時間を厳守する。生徒からの要望があっても延長練習は認めない。

（２）保護者からの正当な理由があれば休むことを認め、それによる不利な扱いはしない。

（３）民間からの指導者を補助監督として採用し、準備運動から整理運動まで指導する。だらだら練習を避けることができるばかりか、質的にも充実した練習ができる。

（４）プロや全国レベルを目指すものは、部活終了後、民間のクラブで質的にも量的にも高度な練習ができるようにする。民間の受け皿を作ることが必要だが、施設はある。指導者もいないわけではない。管理運用費用が問題だが、一般からの寄付を募るのも一つの方法である。

（５）中間期末試験の１週間前は一切の部活動を停止する。

（６）春休み・夏休み・冬休み中の練習日は休み期間中の半分を越えないものとする。また、練習時間も土曜日と同様４時間以内とする。先生が勝手に突然練習試合を組むなどはもってのほかである。地域社会におけるボランティア活動などは最優先すべきだ。

（７）教育の一環としての部活動であることを再確認し、学業に差し障りがでるような活動は一切認めない。公立中学からレベルの高い高校や大学へ進学しようとする者もいるのだ。部活動で学習時間が奪われたりすることがあってはならない。激しい疲労も学習にはマイナスだ。塾に通うも通わないも自由だが、学習する時間と体力は十分に確保することが大切だと思う。

（８）部活動の話ではないが、体育の授業中に基礎体力トレーニングをしっかりやらせることが必要だと思う。そうすれば部活の練習中は技術の練習に専念出来て、効果的だ。

（９）部活動そのものが悪いわけではない。時間的にやり過ぎだと言っているのだ。短時間に集中的にやらせるべきである。

（１０）体力的な差や能力的な差を考慮し、適切なプログラムをつくって指導すべきだ。そのためにも民間から有能な指導者を補助員として採用すべきである。老人福祉も大切だが、子供の教育は将来の国力を決定する。もっとお金をかけるべきだ。

以上

公立学校との連携とその後…

菅原明之　（東京都江戸川区　菅原進学教室）

平成 16 年 5 月 31 日に東京都江東区立八名川小学校で学習塾と公立小学校との連携事業に携わって以来、現在平成 27 年7月下旬には公立中学校との連携事業を無事終え、凡そ 11 年以上に渡り連携事業を実施しております。

連携事業にかかわった動機としては、端的に「学力低下」の実態をこの目で確かめたかったのが本意です。当時、大袈裟に謂えば学力低下の原因を究明し、対策を講じたかったという思いが本音だったと思います。

＊ ＊ ＊

小学校での最初の授業の際に、こんな問題が起こりました。何度か算数の授業を見学させて頂きました。恐らく学習塾で中学受験の指導をうけている児童だったと憶測します。その児童は授業に集中せず、殊の外、暇な様子でした。予め学校長から習熟度の高いクラスを指導するように言われていましたので、何とか対応策を考えなければと思っていました。

そこで、習熟度別の授業初日に、独自で作成した「できるんだテキスト」を配布したところ、即座にクレームがあり、即日回収しました。問題点は「できるんだ」という表現が「できるようになるための」という趣旨だったのですが、「できる子のための」と解釈されてしまった点にあったようです。

＊ ＊ ＊

公立学校での授業と学習塾での授業は大きな違いがあります。それは、学習塾は月謝を媒介とし、学習することを目的として児童は通塾します。しかし、学校は必ずしも学習することを目的として通学していません。例えば「友人」だったり、「クラブ活動」だったり、「給食」の場合もあります。つまり、学校における教育活動で如何に自分の居場所を見つけ、積極的にかかわるための大切なものがあるかが優先されます。そこに価値を見つけて教育活動をする場が学校なのです。

＊ ＊ ＊

私は、平成 20 年度まで小学校で算数の習熟度別の授業にかかわってきました。そこで感じたことは、小学校では真に大切なことは体験を通して教えているのだと実感しました。

例えば、平行線の指導をしている際に、学習塾では同位角は等しいとか錯角の位置は等しいとかを知識として処理してしまいます。しかし、学校では分度器を使用して角度を測り、本当に等しいことを実感します。また、1 ㎥の大きさを考える場合に1mの物差し3本と教室の角を利用してその大きさを体感します。そして、1 ㎤の小さな立方体と比較して、如何に大きいかを認識します。小学校段階での算数の量感を育てる授業では、学びに本質があり学習塾ではなかなか実践できません。

さらに、小学校の基本的な指導法は「問題解決型」です。教えてもらうのではなく、自ら考え導き出すことです。ですから、単に小数の計算や分数の計算をするのではなく、深い理解を目的として指導します。教科書の内容は一般的な概念を前提に書かれていますが、授業としては児童が自ら考えたことを発表し、個々の児童が自分なりに納得することを第一とします。

当時は都内で都立中高一貫校が開校ラッシュでした。学習塾にも通わず合格した児童にこんなエピソードがあります。それは、その児童が小学五年生だったと思います。多角形の内角を学習していました。その児童は、自らの図形に補助線を引き、三角形と補助線の関係を考え、内角の和を導く公式を作ってしまいました。そして、その児童は自分で作った公式を皆の前で堂々と発表しました。その姿は今でも目に浮かびます。

＊ ＊ ＊

東京都足立区教育委員会の依頼で、夏と冬の休暇に補習指導を実施したのは平成 18 年 12 月 21 日からです。当初は夏休みと冬休みと年間2回実施していましたが、現在は夏休みだけの実施です。また、学年と教科も当初は中学1～3年生で国語・数学・英語を実施していましたが、現在では中学2年生の数学と英語のみになっています。

この事業の目的は、当時足立区が都内23区で最下位の学力だったため「学力向上」を第一の目的とし、また経済的に学習塾に通うことのできない生徒への支援も兼ねていました。

ところが、現場の教師と学校管理者、さらに教育委員会というトライアングルで常に公務員独特のプライドが衝突します。

現場の教師は学習塾が介在することにやはり不満を持っています。しかし、学校長や副校長などの学校管理者は学校を良くする取り組みとして実施することを決めました。私が公立中学校との打ち合わせの際に、担当の教師から開口一番、この連携事業には反対であり協力するつもりはないと言われたことが記憶に鮮明に残っています。

また公立中学校と教育委員会では、悪平等主義が根幹にあります。つまり教育委員会は公立中学校の独自性を一切認めようとしないのです。一律平等にという姿勢を貫きます。その結果、独自性を求めようとする公立中学校と、一律平等を固辞する教育委員会の矛盾した構造が是正せずにそれが確執となり未だに弊害が生じています。

＊ ＊ ＊

平成26年度から足立区の補習事業が随意契約から入札制度に変わりました。個人情報の管理や法令遵守、自社の経営の安全性が問われます。幸いにして、当初からこの事業に関わっていることに温情があったと思います。辛うじて落札することが出来ました。しかし、同時に落札した事業所には大手企業もあります。既に時代は、事業規模の拡大により、「安全」・「安心」が優先され、「本質的に教育内容を改善する業者」の「思い」は、反映されません。

＊ ＊ ＊

提出書類も増えました。入札の際も書類の多さに面喰いましたが、その後の実施に関しても書類が多く悪戦苦闘しています。もはや、専門部署がないと運営は難しい状況です。今の当塾の状況では、寝る暇もないというのが実態です。

さらに入札になってからは、公立中学校からクレームがあった場合には「実施改善報告書」を提出しなければなりません。

極めつけの内容としてこんなことがありました。それは、「生徒の名簿のふりがなの間違いが多い。」ということです。生徒名簿を受け取る際に簡便にしたい思いで「ふりがなのない名簿」を頂いたことは事実です。それは、担当の先生の煩わしさを少しでも減らすことができればと思ったからです。また、氏名のふりがなの訂正は、講座が開始されてから各担当が訂正し、それを私に報告し、正しい名簿を作成すればいいと考えていました。しかし、それでは認識が甘かったと反省しています。

そこで、改善書に「ふりがな付の参加者名簿を頂く」という内容を提出しました。しかし、教育委員会から訂正がありました。その内容は「学校に負担をかける」という内容でした。さらに改善策として「参加者名簿を頂き、当社でふりがなを推察しながら記入し、中学校担当者に確認をして頂き作成する」という内容で再提出しました。ようやく一件落着です。しかし、これでは作業として効率よくありません。恐らく公立中学校の先生方も同様に察して頂いたのでしょう。本年度は快くふりがな付の名簿を頂くことができました。

「ふりがな」がなぜ大切なのかと申しますと、生徒名簿はエクセルで作成され、さらにマクロが組まれています。

つまり、漢字の氏名とふりがなを記帳しないとシステムに反映されないという、ややっこしいものなのです。

概ね上記の内容は私の愚痴に近いものになってしまいました。しかし、公共団体との連携というものはいかなるものか垣間見られたのではと思います。率直に言って、11年以上もこのような連携事業を実施してきました。確かに、売り上げの増加はありました。凡そ利益はありません。ボランティアです。さらに、既に足立区の事業は学習塾との連携ではなく、大きな企業との連携に徐々に移行されています。

思うに公教育は公教育としての役割があり、学習塾は学習塾の役割があるということをひしと感じています。それぞれ地域として実践内容は異なるかと思いますが、そろそろ学習塾は本業で勝負すべきかと思います。

それは、公立中学校などの現場で「自塾の経営が危ないから、此処で指導しているんだ」と揶揄されているとの報告もあります。我々は、少しでも日本の教育が良くなるようにと手弁当で参加しているのに、このようなことを耳にするのは残念でなりません。

＊ ＊ ＊

予算がなく、随意契約の場合は小さな組織に頼み、予算がつき大きな事業となった場合は大手の企業が仕事を請け負う。仕方のないことかもしれません。しかし、その径を最初に切り開いたのは小さな組織であります。教育委員会の担当者は長くても3年で交代します。そこには、長年の経緯を知る担当者は不在です。常にその時の担当者に都合がいい企業が優先されてしまいます。悔しさは残ります。しかし、潔く道を退くのも大切かと考えています。老体に鞭打ってもそろそろ動きが鈍くなっています。

NPO 塾全協東日本ブロックの１年

中高入試を考える会
–私学と私塾の新年度情報交換会

日時：2015 年 5 月 31 日（日）
会場：中野サンプラザ
講演者：森上　展安　氏（首都圏中学入試について）
　　穴澤　嘉彦　氏（東京都高校入試について）
　　五十嵐裕明　氏（千葉県高校入試について）
　　岩佐　桂一　氏（埼玉県高校入試について）

ブリティッシュヒルズ英語合宿

NPO 塾全協では 2014 年 3 月より「パスポートのいらない英国」ブリッティッシュヒルズで 7 回英語合宿を実施しています。2015 年 5 月から 2016 年 3 月までの合宿は以下のとおりです。5 月の合宿では何と大阪から生徒 3 名と引率の先生 1 名（白井先生）が参加！白井先生は 11 月の塾全協全国研修大会でそのときの模様を発表しました。

①2015 年 5 月 3 日～5 日　②2015 年 8 月 11 日～12 日　③2015 年 12 月 31 日～2016 年 1 月 1 日　④2016 年 3 月 19 日～21 日

British hills で生徒募集

ブリッティッシュヒルズ担当　**望月玄一郎**　（埼玉県ふじみ野市　オメガ個別指導）

英語ブームの昨今、英会話教室がとても賑やかです。普通の学習塾では、ネイティヴ講師を雇って英会話を行うことは難しいのが現状です。我々としてそんな英会話教室の賑わいをただ眺めているのは、少々癪です。

この機会に British hills を活用なさってはいかがでしょうか？

実際、British hills を塾内で宣伝して生徒募集を成功させている塾もあります。学校や保護者の間で British hills の英語合宿が広まるとそれ目当てで入塾してくる生徒が何人も出てきています。　また、塾のイメージアップにもなり一石二鳥です。

現在、ＥＣＣジュニアさんなどが British hills を活用して英会話の実戦として利用し、多くの生徒を現地に連れて行っていて、教室の売り物としてイベントにしています。

一般的な学習塾で行っているのは、塾全協だけ！会員の皆様の生徒募集、イベントなどに利用して頂けたら幸いです。

英語合宿に行ってきました

NPO 塾全協東日本ブロック副理事長　**内藤潤司**　（埼玉県狭山市ソロモン総合学院）

3 月 19 日から 2 泊 3 日で、BRITISH HILLS に生徒 6 名、先生 2 名で行ってまいりました。

参加者が、自塾の各学年の生徒全体の６％の参加数でしたが、昨年の反省で、人数に関係なく今年は、絶対実施するという方針でしたので実行しました。

一言でいうと、生徒たちが嬉々と授業を受けている様子を見て、いい企画と満足しております。寒い季節で他の参加者があまりいませんでしたので、やや寂しい感じもしましたが、満足度の高い研修でした。

ソロモンでは、年中行事として組み入れたいと思いますし、塾全協としても、各塾から数名ずつでも参加していただき、継続した活動としていけたらと願っております。今回 1 年生の中に、英語の不得意な生徒がいましたが、英語のモチベイションを高めるという意味において成功したと言えます。期間中、5 回のレッスンでしたが、1 年生 3 名、3 年生 3 名でしたので同じグループで大丈夫かなとの不安もありましたが、生徒たちは、違和感を持たなかったようで、先輩・後輩として仲良しになったようです。

これまで、何回も企画し、英語合宿のスタイルを作ってくださった担当者の方のご苦労に感謝いたします。

各進学相談会

① 東京（第 36 回）

2015 年 9 月 6 日（日）、新宿 NS ビル新宿 NS ビル
参加校：119 校、来場者数：約 4,000 名

②千葉（第 27 回）

2015 年 9 月 23 日（祝）、ザ･クレストホテル柏
参加校：44 校、来場者数：約 800 名

③埼玉（第 28 回）

2015 年 9 月 27 日（日）川越プリンスホテル
参加校：40 校、来場者数：約 500 名

教材・教具展

2016 年 1 月 15 日（金）10:30～14:00
柏商工会議所 4 階
参加業者数: 31 社（ブース数:38）
来場者：65 名

（第 3 回）塾長のための英会話教室

2015 年 11 月 29 日（日）午後 5 時～7 時
津々浦々（柏）
講師：ランズリー・ドウハイロンソッド氏
（レインズ英会話）参加者：6 名

第 41 回　NPO 塾全協全国研修大会　今回は西日本ブロックが担当で、神戸で初めて開催！

テーマ：英語教育の課題とその克服　PARTII 一生徒が輝く英語の授業一
2015年11月1日(日)　於　ラッセホール　　5F

基調講演&ワークショップ　テーマ：生徒が輝く英語の授業
講師：中嶋 洋一氏（関西外語大学英語国際学部教授）

実践報告1　ブリテッシュヒルズ体験
白井陽子氏（大阪府帝塚山　Shirai Private School）

実践報告2　境山哲夫氏(兵庫県伊丹氏　まねびSSTクラブ）/ 生徒の英語落語　ぷりん亭芽りん　くらや亭りん音

神戸研修大会を終えて

実行委員長　**藤井寿比古**（兵庫県神戸市　藤井塾）

「神戸で研修大会をしたい。」これが　私のかねがね思っていたことでした。それが、一昨年　５月のブロック総会後の懇親会でぽろっと出ました。それを聞いた会員の皆さんが後押しをしてくれました。１０月頃、長年の付き合いの教材会社の方に基調講演をしてもらう方を相談しました。すると、中嶋先生を紹介してくれました。それで、関西外大の研究室を訪ね先生にお願いしました。ここで、大会のイメージが出来ました。

１２月の一泊研修で、素案を出し、皆さんの了承を得ました。骨格が出来ると、あとは肉付です。英語教育が脚光を浴びている状況で　会員のまねび先生、白井先生の出演も決まりました。

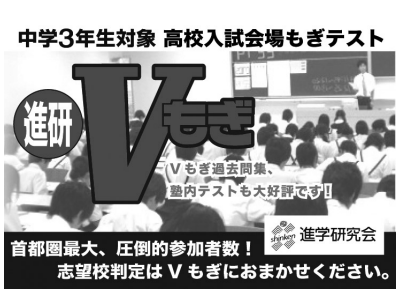
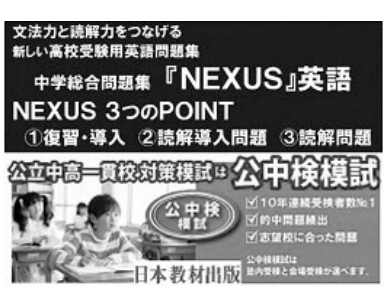
昨年の、２月から私自身も社会人の英語サークルに入会し、話せる英語の訓練をスタートし、芝原先生の指導を受けました。そして、芝原先生には、９月大会と同じ会場でプレイベントとして「話せる英語」のワークショップをしていただきました。大変好評でした。

いよいよ、本番。当日の内容は、参加された皆さんが感じられたとおりです。これまでの大会とは異なり、３時間の英語のワークショップ、その後の会員の実践報告、エンタメとしての英語落語。大反響、大満足の５時間でした。

皆さんの提案で、「大会宣言」に英語を入れたりしました。その精神を続けていくため、私自身も英語サークルを続けながら自塾で生徒の英語指導を続けています。

皆さん、たくさんのサポート、助力、配慮、ありがとうございました。

編集後記

NPO塾全協 全国事務局長・東日本ブロック広報局長　**中村基和**（東京都中野区　むさし野ゼミナール）

従来は縦書きのタブロイド版で版下は業者に依頼してイラストレーターで編集していた塾全協新聞ですが、時間と経費を考えて今回初めて横書きA3版でワードで編集してみました。1行が横に長くて読みにくいかなとも思いましたが、いかがでしょうか。B4版で8ページなんていうのも考えています。